

LIVE: ロンドンブーツナイト 1991. 4. 7 名古屋 E.L.L.



← DOLLS  
DOLLSのライブ  
4/5 ラママ  
5/10 ライブステーション  
5/24 ラママ  
4/3 ライブステーション

HARLEM JOKERS, ありふれた感じの演奏と歌。MAGIC CARPET RIDE, ギターはよかった。THE YELLOW MONKEY, 3月2日のハウスシアターのときはちょっとよくなかったのに、とってもよくてびっくりした。DOLLS, この日5バンドの中でいちばんひきつけられた。たいていベースの人にしか目がいかないのにこの日はベースの人に全く目がいかなくらい全体が「パワフルなステージ」だった。ギターもすごくなりびびいて、ヴォーカルも後半はとくにひきつける力が強かった。ティラノザウルス, ヴォーカルの人が「原声みたいで、おもしろくなったけど、ギターがよかったから、痛みを感じるくらいはギターだったから。」

LIVE: ロンドンブーツナイト 1991. 4. 8 大阪 AM・ホール

大きなライブハウス。ステージのすぐ前につかかっている人たちの後ろはテーブル席で、飲んだり食べたりしている人たちがいっぱい。グラスや空カンや皿を片づけたら、皿をとりかえに店の人が何人も演奏中でもあちこち歩きまわっている。クーラーも交かきすぎ... と気が散る材料がいっぱい。

だけどTHE YELLOW MONKEYのときは

そういうことが全然気にならないで、ステージを見つめてつづけていられた。前日のE.L.L.にもましてステキだった! 魅惑的なヴォーカル、すく魅惑的な、ティラノザウルスとはまたちがった濃密な世界、湿気があるというか、血や花のなきあたにかきがあるというか...。極彩色の沼から極彩色の匂いがたちのぼっているような...

THE YELLOW MONKEY



ライブ 4/9 ラママ (ワヤヤ)

BOOK: 「オペラ座の怪人」 ガストン・ルルー著

「ダーエの父親の物語のなかで、音楽の天使が登場しないものはめったになかった。そこで子供たちはその天使について、果てしない説明を求めた。ダーエの母親は、すべての偉大な音楽家、すべての偉大な芸術家が少なくとも生涯に一度は、音楽の天使の訪問を受けたものと主張した。(略)

天使の姿は決して見えないが、特に選ばれた魂にはその声が聞こえるのだ。しばしばそれは魂がいちばん予期しない瞬間、魂が悲しく気落ちしているときに訪れる。そんなとき、耳は突然に天上の調べを、神聖な声を感じ出し、それを生涯忘れないのだ。天使の訪れを受けた人たちは、それによって火がついたようになったままである。そういう人たちは、ほかの人たちが決して経験しない戦慄を覚えて震えるのだ。そしてそういう人たちはもはや楽器に触れたり歌うために口を開いたりすれば、かならずその美しさによって、他のすべての人間のかげで音を恥じ入らせるという特権と持っている。相手が天使の訪問を受けたこと知らない人たちが、彼らは天才だと言っているのだ。」(P.95)

「その夜、あたしたちはもうひとことも言葉を交さなかったわ... 彼はハーブを弄るとして、人間の声と天使の声で、デステモナのロマンスを歌いはじめたの。あたし自身がそれを歌ったときのことを思い出すと、恥ずかしくなりましたわ。ねえ、音楽にはひとつの作用があって、自分の心を打つその音以外に、外の世界にはもう何も存在しないような気分させてしまうのよ。あたしは異常な冒険の渦中にあることも忘れてしまったわ。ただあの声だけが残り、あたしは酔いしれてその快い旅に出たの。」(P.225)

「オペラ座の怪人」は音楽の秘密に満ち満ちていて読んでいて目もみはった。それとエリックとクリスチーナの愛。崇高。愛は魂のふるえであることがほんとうによくわかる。27号(1991. 3. 22発行)でティラノザウルスのライブの感想にジャガーの「出現の天使のことを書いたけれど、ここにも天使がでてきて、それにもふるわされた。」



「オペラ座の怪人」創元推理文庫 ¥630

LIVE: WAIATS 1991. 3. 29 新宿アンティノック

ジムパディアのゲストということ、Billy The Caps, LOVE SICK LOVERS, WAIATS がジムパディアの前にやった。WAIATS, よかった! 去年の2月28日アンティノックで見て以来なのだけど、その間また見たらいいと思うって思っていた。



「WAIATS, はじまったとたんにはステージが架空の世界になって、すぐにひきこまれた。背後に大きな沈黙があって、その沈黙からひとすじきこえてくるもの。それがヴォーカル。歌が伝わってくるんじゃない、歌を吐いて沈黙が伝わってくる。次のライブで「行きたいと思った」1990. 2. 28のライブの感想

うなみにこの日のジムパディアは「OK!」でした。

LIVE: THE BLUE HEARTS 1991. 4. 2 大宮ソニックシティー

「未来は僕らの手の中」、「NO, NO, NO」、「ハンマー」、「爆弾がおこちるとき」などつづけてやった。なんかもやがつかかっているみたい。レコードからきこえてくるような感じ。ステージで4人が生きてやっているパワーが感じられない。ピアノの人が入って2曲目の新しい歌「MONKEY」はよかった! はじめてきいても歌詞が全部聞きとれた。

そのあとまたエネルギーがしぼんでいって、私は自分の肉体的から解放されず、胃のあたりに不快感を感じながらぼそっと立っていた。「情熱の薔薇」はよかったけど...

LIVE: 消毒 Gig Vol. 67 1991. 3. 21 新宿アンティノック

ハイルドライバー、バスタード、GAUZEの3バンドをきいた。ハイルドライバーだけ、よかったのは、曲に流れがあってききこえがあった。バスタードはヴォーカルが陰険で、きいていて気分がわるくなるほど。GAUZE, 楽しみにしていたんだけど、残念でした。

LIVE: ROAD CRUISE 1991. 3. 27 新宿口ト

客席から見て左側のギターの人とドラムの方は音楽の中に入っているけど、ヴォーカル、もう一人のギター、ベースの3人は、正気のままの目で、見せようとしている感じがしておもしろくない。歌詞は全部英語。

MOVIE: ロッキホラーショー

1991. 4. 6 吉祥寺ハウスシアタースクリーンの前で映画と同時進行の互屠つき。観客参加型の映画。

映画のセリフに大層の手をいれるのよ、いいけど、毎回同じセリフを繰り返すのよ、いい

今後の上映スケジュール

4. 30(六本木)	(EL CINEMA BAR FLIX)
THE ROCKY HORROR NITE LIVE VOL. 21	
DOOR	12:00
OPEN	12:30
START	13:00
END	14:00
5. 17(吉祥寺)	(EL CINEMA BAR FLIX)
THE ROCKY HORROR NITE VOL. 21	
DOOR	12:00
OPEN	12:30
START	13:00
END	14:00



GLAM ROCK: ティラノザウルスが女子きだということ、たいてい「グラムなんでもしていいわね。私はグラムって何のことだかわからないから「グラムってどういふの」って反対にきいてみるのだけど、よくわからない。ティラノザウルスをきくのにそんなことわからなくていいんだけど、雑誌「ロックン」(1987. 10月号)のDEAD ENDのクレーダーの定義はティラノザウルスに「ばっちりあてはまると思った。」

「グラムとは、ただ単に派手でセッポいだけじゃないですからね。曲はけっこうポップなやつけど、ステージはちょっと違う。ステージと曲とのギャップというのがあ。あいうファッションをしててもステージはすごいワイルド。そういうのが昔のグラム・ロックだと思ってる。(略)華やかでもいっけい、席分がある。さっきも言ったように女のようならびやかなファッションをしているんだけどステージはパワフルでワイルドで、すごい。それにメンバーのひとりひとりがすごく自己主張が強いところもある。ハードコアやパンクにはかなわないけど(笑) ティラノザウルスはハードコアやパンクにも負けたくないと思うけど、私は。